

## 【接続を見通した教育課程の編成を目指す小学校との連携】

小学校との連携については、学習発表会の児童公開日に年長組が参加するなどの活動を年間指導計画に位置付けるとともに、子ども同士の交流や、相互に授業参観、保育参観をするなどの交流を実施してきた。

さらに、今年度以降は、接続を見通した教育課程の編成・実施を目指したいと考え、その手がかりとして、次年度の年間指導計画作成にあたり、交流場面に限定せず指導計画全般について小学校に意見を求め、小学校とのつながりを考慮した計画を作成したいと考えた。

### 【成果】

- ・地域公開保育や園行事等を参観した小学校校長、教頭、教員を中心に意見を求めたことで、教育課程および年間指導計画の考え方の共通点や違いについて理解することができた。
- ・地域公開保育に来園した保育園長にも助言を得ることができ、0、1、2歳からのつながりにも目を向けることができた。

### 【考察】

- ・今後は、作成した教育課程および年間指導計画を区内幼保小に配付し、広く意見を求めたい。
- ・修了児が就学する小学校と、子どもの育ちについて共通の願いを交流していきたい。

## 【職員同士の交流を深める保育所との連携】

### 1 本園教員の保育所見学

預かり保育制度の開始により、長時間保育の工夫や保護者との連携の工夫について保育所から学びたいと考え、夏季休業中に近隣の保育所を見学した。

### 2 特別支援教育にかかわる教材作成

保育所見学の際に、教材についての質問を受けたことをきっかけに、冬季休業中に特別支援教育コーディネーターを中心に学びの支援部が保育所を訪問し、共に教材を作成しながら職員同士の交流を行った。

### 【成果】

- 1 保育所見学を通して、幼児が自分で午睡の布団を片付け、牛乳パックを洗って乾かすなど、生活に必要な習慣が日常の積み重ねによって形成されていることを改めて理解することができた。また衛生面や感染症についての保護者への伝え方や、就労している保護者の利用しやすさへの配慮などが参考になった。



- 2 教材作成では、本園で使っている教材を見ながら、どのような場面で使えそうかどのような子どもの支援に使えそうかなど、話し合いながら、教材を作成した。

支援が必要な幼児にふさわしい教材がその場で作成され、すぐに活用して互いに成果を確かめることができた。

### 【考察】

今後も可能な限り互いの保育を見合い、よさを伝え合ったり質問し合ったりすることで、職員同士の交流を深め、学んだことを本園の保育に生かしていきたい。

# さゆり幼稚園

〒064-0824

中央区北5条西24丁目2-8

## 【小学1年生との連携】

- ・連携先・・・札幌市立円山小学校
- ・数年前より、小学校入学前の園児の不安を取り除き、安心感と期待感をもって入学できることを目的として、年長児が円山小学校に訪問させていただき、施設や授業の様子を見学させていただいていた。



- ・今年度は12月1日（月）に実施。施設、授業見学の他に、1年生生活科の授業の一環として、児童との交流の時間をもたせていただいた。

### 校内見学～初めて見る道具に興味津々

当日は、児童が円山公園で拾ったどんぐりを使用し、小グループで工夫して作ったおもちゃ（くじ、けん玉、やじろべい、マラカス、糸電話、ゲーム等）とおみやげのメダル（折り紙、メッセージつき）が用意しており、グループごとに園児に遊び方を教えてくれたり、使い方を説明してくれたり、遊んでくれる等、児童と園児の交流の姿が見られていた。



### 年長児と1年生の交流の様子

「こうやってあそぶんだよ」「わぁ、すごいね」

特に今年度は、1年生と交流をもつことで、「勉強は難しい」「嫌だな」というイメージから、「楽しそう」「やってみたい」「小学校に早く行きたい」との声が聞かれ、期待感が膨らんでいる。

- ・小学校と園との関わりが密になり、就学に向け、子どもの様子を前もって伝えることがしやすくなる等、連携が図りやすくなったと感じる。

## 【考察】

- ・小学校訪問をさせていただくことで、園児だけではなく幼稚園教諭にとっても成長の連続性や課題（年長児として取り組むべきこと等）が理解でき、よい学びの場となっている。毎年年長児が楽しみにしている行事だが、特に今年度は、児童との交流をもつことができ、園児の意欲が向上する等、例年以上に進級に向け楽しみにしている姿が見受けられた。ただ毎年単発的な交流となっているので、小学校のカリキュラムと相談しつつ、年間を通しての活動ができることが望ましいと思う。



【札幌市立幌西小学校との連携】

- ・年長児が小学校を訪問させて頂き、小学1年生と交流しています。現在は、授業の中で幼稚園の子どもたちが遊ぶ遊びや、一緒に楽しめる遊びを考え、事前に準備してくださっています。
- ・教職員の一人の出身校だった縁で、小学校訪問の依頼をしたところ、快諾して頂きました。今では毎年恒例の行事となっています。
- ・入学予定の園児を交流の際にお伝えしています。実際に子どもの様子を見て頂き、引継をしています。

【成果】

- ・1年生になった卒園児の姿も見る事ができるので、小学校に入学してからの子どもたちの姿が、以前よりも具体的にイメージできるようになりました。小学校で困らないためにも、卒園までに達成していた方がいいことに気付きました。
- ・初めての場所で、初めて会う相手と過ごすことで、普段の生活では気付きにくい子どもたち一人一人の課題を再認識する機会となっています。
- ・小学校の授業の様子を見ることで、保護者の方に幼稚園との違いを説明する際に役立っています。
- ・交流の時期が、就学時健診と近いので、年長児にとっても小学校で1年生と一緒に遊ぶ経験は、その後の安心感や期待感につながっているように思います。

【考察】

- ・回数を重ね、施設や授業見学から、園児と1年生の子ども同士の交流へと時間の持ち方も変化していきました。
- ・交流の時期等、お互いの考えや要望を伝え合うことで、今後に向けての相談ができるようになりました。
- ・他の小学校とも交流の機会を設けることで、子どもたちの就学に向けた期待感や入学後の安心感につながるように努めていきたいと考えています。

【1年生が考えた遊びを通して交流】



【年長児が YOSAKOI を披露】



# つぼみ幼稚園

〒064-0807

中央区南7条西25丁目1-5

## 【緑丘小学校1年生との交流】

- ・ 9月18日(木)・10月30日(木)の2回小学校で実施。
- ・ 年長児が緑丘小学校を訪問し、1年生が楽しいゲーム等を用意してくれて、小学校は楽しい所だということを教えてもらった。
- ・ 2回目の交流では、教室で勉強の体験をしたり、1年生がリードしてくれたりしながら、学校でどんなことをするのか等体験させてもらうことができた。
- ・ 小学校側から交流を企画して下さり、実施の流れとなっている。
- ・ 年長の8割程度が緑丘小学校に入学する。



【名前を書いて名刺交換。優しい1年生！！】



【学校の椅子に座って、先生のお話を聞いています】

\* 5年生との交流を10月9日(木)に行なった。2月4日(水)にも実施する予定。

## 【成果】

- ・ 連携することで、小学校入学に不安をもっている園児が、入学を楽しみにするようになった。
- ・ 小学校での体験を通して、入園に期待を膨らませている。
- ・ 小学校で教えてもらったことを幼稚園に帰ってきてからもやってみるなど興味を広げている姿が見られる。

## 【考察】

- ・ 継続することによって、1回目に関わってくれた児童と2回目も関わったり、優しくしてもらったりすることで、小学校が楽しい場所となっていく。
- ・ 小学校で活動することで、その環境にも少しずつ慣れていき、入学してからもスムーズに小学校での生活を送れるようになっていくと感じる。
- ・ 教師間でも園児の様子等、情報を共有しやすいと思う。



【ボール送り】



【ロンドン橋】



【じゃんけん列車】

# 札幌市立中央小学校

〒060-0041

中央区大通東6丁目12

## 【地区保育園・こども園との連携】

今年度も昨年度に引き続き、聖園こどもの家、駒鳥保育所、大通夜間保育園、鉄道弘済会札幌保育所の4園と交流した。

### ・連携の様子

- ・7/18に生活科「夏まつり」に招待：1、2年生児童と年長児

- ・7/21と12/5にてブロック交流会を実施：職員同士

- ・11/13の学芸会児童公開日への招待：年長児

- ・休み時間の縄跳び交流：5年生児童と年長児（2学期～3学期）

- ・学校訪問：年長児（3学期）

### ・連携に至る経緯

今年度は、昨年度までのつながりをもとに「つながりをつなげよう」をテーマにして連携を図った。学期に一度ブロック内で交流会を開き、各園との行事予定などを確認しながら交流できる活動を話し合った。

互いの行事に参加できるかを模索し企画を考えた。前期は、低学年との交流からスタートし、後期以降は、次年度6年生と1年生の関係になることを考えて、年長児と5年生とのつながりを大切にしたい取組を始め現在に至っている。

## 【成果】

- ・幼保小連携推進協議会での交流以外にブロック内で職員間の交流を図ることができた。電話やFAX等で連絡もスムーズに行えるようになり、園や学校の行事だけでなく研究会や研修会等にも互いに気兼ねなく参加や交流できるようになった。
- ・園の子どもたちも毎年、夏まつりへの参加や学芸会の観覧など楽しみにしている活動になっているようである。また、運動での交流に対して互いに興味をもち、今年度から縄跳び交流ができるようになった。
- ・場所や物品の借用もできるようになった。

## 【考察】

- ・連携を図ることで地区の子どもたちを幼保の時から継続的に見守る体制ができてきたように感じる。特に引継では、交流での園児の様子や実態から具体的な話ができるのでスムーズに引継ぐことができたのではないかと考えられる。
- ・担当者が変わっても連携が図れるような体制づくりも必要になってくると考えられる。



【体育館で縄跳び交流をしている】



【体育館で夏まつりに参加】

# 札幌市立山鼻小学校

〒064-0914

中央区南 14 条西 10 丁目 1

【幼稚園、保育所との連携】

## 《連携先》

- ・札幌市立あけぼの保育園
- ・めばえ幼稚園
- ・札幌大谷幼稚園
- ・札幌いづみ幼稚園
- ・Y M C A 幼稚舎
- ・山鼻保育園 など

## 《連携内容》

### ○職員同士の交流

- ・互いの儀式、行事等への職員派遣  
入・卒園（業）式、運動会、生活発表会、  
学習発表会、
- ・園の行事等の小学校校舎の貸与  
運動会（6/29、9/13、9/20）、プール遊び（8/28）
- ・懇談会、講演会への職員派遣（10/27、11/6、12/17）

### ○児童、園児との交流

- ・学校探検、体験入学（8/19、10/6、12/1）、スキー山でのチューブ滑り（2月）

## 《連携に至る経緯》

これまでも幼稚園や保育所の入園式等への参加やグラウンド貸与、新入学児童に関わる連絡・引継ぎが行われてきた。平成 24 年度冬季に「ウィンタースポーツキャラバン」の事業を本校グラウンドで行うこととなり、児童と園児の交流が行われた。平成 25 年度はこれまでの交流に加えて互いの参観日、公開保育等へ職員を派遣し合うことから始め、学校探検やプール遊びに保育園児を誘った。また、幼稚園、保育園の運動会のための総練習にグラウンドを利用してもらった。このように、少しずつ、その年度にできること、したいことを伝え合いながら交流を深めてきている。

## 《連携先との関係》

この 2 年間、できることから初めて「こんなこともできるかな」「よし！やってみよう！」という姿勢で交流を積み重ねてきた。その結果、交流が定例化する等、関係が深まってきている。

## 《成果》

職員同士の交流、入学予定の保護者対象の講演会の実施、児童と園児の交流など交流の幅が広がっている。

また、年度の計画の中に位置付けて実施することになってきている。（定例化）講演会は、保護者の不安解消に役立っており、スムーズな接続が行われている。

## 《考察》

天候に左右される行事もあり、予定がずれると日程調整が難しくなる場合があった。あらかじめ予備日の設定も含めて早い時期に相談できると互いの運営がスムーズになる。



【校長先生がお出迎え】



# 札幌市立幌西小学校

〒064-0810

中央区南 10 条西 17 丁目 1-1

## 【幼稚園との連携】

毎年 12 月の初旬に大谷第二幼稚園・オアシス保育園と 1 年生の交流会を実施している。

本校と同園・保育園が同じ中央区にあり近隣であること、毎年園児が本校に入学してくることなどから、教諭同士の連携や園児・児童の交流を深めるために 10 年以上前から交流を行っている。

今年度は園児 64 名に対し、1 年生 150 名が交流した。1 年生が 4～5 名に対し園児 1～2 名が同じグループとなる。

園児が学校に到着すると、教室ですぐに自己紹介をし、簡単な手遊びやお絵かきなどの小交流を行った。最初はお互いに緊張していたが、時間が経つにつれてあちこちから笑顔が見られるようになっていった。

5 分ほどの小交流の後、場所を体育館へ移し、1 年生が生活科「あそびランド」でつくった遊びで楽しんだ。ペットボトルで作ったボウリングや段ボール迷路など、1 年生が工夫して作った遊びを園児はとても楽しんでた。

最後には、園児たちのお礼として運動会で踊った「よっちょれ」を 1 年生に披露してもらった。園児たちが一生懸命踊る姿に、1 年生は真剣に見入っていた。



まずは教室で小交流



1 年生のつくった遊びで楽しむ

## 【成果】

- ・ 1 年生にとっては「来年の 1 年生のために」という意識で交流会を準備している。下学年への関わり方を学ぶ良い機会となっている。

## 【考察】

- ・ 毎年交流することで、小学校や園の担当者や教諭の意思疎通が図りやすくなっている。小学校と園の新入学の引継などにも生きている。
- ・ 12 月初旬は、インフルエンザが流行し始める時期である。実施後の手洗いやうがいの指導を徹底している。来年度は、11 月下旬に実施するよう調整中である。

# 札幌市立桑園小学校

〒060-0008

中央区北8条西17丁目

中央区

## 【子どもの成長について話し合う連携】

- ・本校では毎年7月に、保護者と地域と学校が一同に会して、共通のテーマについて話し合う「おむすびの会」を開催しています。今年度で31回目を迎えたこの会には、毎年100名近くの方が参加しています。今年度のテーマは、「子どもの道徳性を育てる」で、本校校長の基調講演の後、小グループに分かれて話し合い、最後に全体交流を行いました。
- ・より地域が一体となって子どもを育てていくという観点から、数年前から関係の深い幼稚園や保育園にも参加の御案内を送っています。共通の話題について膝を交えて話し合うことによって、より共通理解が図られています。



「おむすびの会」で、小グループで話し合ったことを全体会で発表している様子

## 【学校見学による連携】

- ・小学校就学に当たり、不安を抱えている保護者やお子さんに対して、学校見学を推奨しています。事前に本校に連絡をいただき、日時を相談の上行っています。来校された方には、相談の他に、実際に授業をしている様子も見ていただいております。
- ・過去には、緊張感が強くなるお子さんや場が変わると力を発揮しづらいお子さんが事前に来校し、学校に慣れることによって、円滑に学校生活を送ることができるようになった例もあります。年度末に向けて、これから来校する予定の園もあります。



「おむすびの会」の会場全体の様子

## 【成果】

- ・連携を強化することで、今まで以上に、幼稚園・保育園での教育活動について知ることができ、教育の縦のつながりを強く意識することができました。教育課程を見直していく上で、重要な視座を得ることができました。
- ・お互いをよく知ることによって、連絡、報告、相談等を速やかに行うことができるようになりました。相手の顔が見えることは、とても重要なことだと考えます。

## 【考察】

- ・今年度、小学校側から園に行き、実際の教育活動を見ることができたのは、一つの園だけでした。早めに日程を調整して、他の園の見学も行い、より連携を強めていきたいと考えます。
- ・子どもの目線に立ちながら、近隣の幼稚園、保育園との連携を視野に入れた教育活動を教育課程上に位置付けることができないかと検討していきます。

# 札幌市立円山小学校

〒064-0821

中央区北1条西25丁目1-8

## 【さゆり幼稚園との連携】

12月1日（月）にさゆり幼稚園の園児約30名が本校に来校した。さゆり幼稚園とは数年前より「学校施設見学」という形で交流を行っていたが、本校児童との直接的な関わりはなかった。

そこで今年度より、児童・園児が密接に関わる機会を設け、幼小の接続を一層意識した取組を実施することとした。

当日は、初めに例年通り学校施設見学を実施した。様々な施設や教室で学習している児童の様子を見学し、そこにある物を見たり、触れたりすることで、小学校という場を意識させていった。

その後、1年生児童との交流を実施した。1年生の児童は生活科「たのしさいっぱい あきいっぱい」の学習で秋という季節を意識し、その季節にあった遊びを考え、楽しむといった活動を行ってきた。その中で「考えた遊びで自分たちだけではなく他の人をも楽しませたい」という意識をもたせ、より子どもが質の高い活動を目指していく姿を期待した。

## 【成果】

今年度が初めて本格的に幼稚園との交流をする機会であったが、日程を調整する上で幼稚園側の協力もありスムーズに当日を迎えることができた。1年生の児童は、幼稚園児との交流があることを知ると今まで以上に意欲的に遊びの内容を考えていた。1年生なりに「相手意識」をもちながら「これで幼稚園の子は楽しんでくれるかな?」「もっと～したほうがいいな」などと考えながら、活動のレベルを高めていく姿が見られた。当日は幼稚園児が来校することを心待ちにしており、多少緊張気味だった幼稚園児たちの気持ちを和らげようと、優しい態度で接したり、丁寧に遊びの説明をしたりと「おもてなし」の心をもって交流しようとする姿が見られた。

## 【考察】

今回は12月に実施したが、より子どもたちのつながりを意識するのであれば、負担にならない程度に、年間を見通した数回の交流を行い、入学後の交流につながる活動を考えていきたい。

また特定の幼稚園や保育園ではなく本校に入学する園児がいる幼稚園・保育との交流の機会を考えていくことも今後の課題である。

いずれにしても、どんな形であれ交流の場を設けることで、次のステップの見通しがもてると思われる。今後もより連絡を密にして連携を深めていきたい。



【小学校ってどんなところなのかな?】



【今日はよろしくお願いします!】



【これはこうやって遊ぶんだよ!】

# 札幌市立日新小学校

〒060-0008

中央区北8条西25丁目2番1号

## 【円山幼稚園との生活科学習を通じた連携】

円山幼稚園からは、例年、数名ではあるものの卒園者が本校へ入学してくる。これまでも学校便りや図書館便りを届けたり、行事に参加したりするなど、教員間での情報交流を通して連携してきた。そこから、子どもの姿を通じた連携へと進んできたところである。

今回の連携は、1年生生活科「たのしさいっぱい、あきいっぱい」「あきのおもちゃでいっしょにあそぼう」の学習を通して行った。児童は、校庭や公園で秋を探し、見付けた木の実や木の葉で作ったり遊んだりする活動を楽しんできた。そうした活動をする中で、もっといろいろな人に遊んでもらいたいという思いをもち、お店を開いて園児を招待しようという活動へと発展していった。



【遊び方を園児に説明する児童】

## 【成果】

今回の取組を通して、「情報の連携」から「子ども間の連携」へと、一歩進めることができた。児童たちは、自分が味わった秋の自然や物を利用した遊びの楽しさを園児にも感じてもらいたいという必要感をもって学習を深め、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができた。また、当日の活動の中で、園児の気持ちを考えて関わろうとすることで表現力やコミュニケーション能力を養い、共に活動する楽しさを体験することで自分の成長を実感することができた。さらに、担任においては、当日の活動の中で子どもたちにどのような支援や言葉かけをしているかを互いに見合うことができ、幼稚園・小学校双方の子ども観や教育観にふれることができたことも成果であった。

## 【考察】

幼保小の連携において大切なことは、まずは子どもの姿を通して、互いを知ることだと考える。研究会や行事などに先生が足を運んで子どもの姿を見る機会を作ることや、一緒に学習に取り組む機会を作ることによって、学びの場がつながっていく。

今後、そうしたつながりの中での一つの取組として、今回の様な学習活動を設定することができればと考える。その中で事前・事後の話合いを充実させ、教育内容を互いに理解し、発達や学び・手立ての連続性を明らかにしながら、園児と児童が共に力を合わせ、主体的に活動する協同的な学びの場へと連携を深めていきたい。



【円山幼稚園の皆さんから】

# 札幌市立緑丘小学校

〒064-0810

中央区南 10 条西 22 丁目

## 【つぼみ幼稚園・ルーテル幼稚園と 1 年生との交流】

＜交流のねらい＞生活科

年長児と仲良くなる活動を通して、自分の成長に気付く

- ・遊びを通して、仲良くなる。
- ・学校の施設を使うことで、入学への期待感を高める。

- ◇ 9 月 1 8 日 体育館で一緒に活動
- ◇ 1 0 月 3 0 日 教室に招待 グループごとに準備して活動



- \* 字の書き方を教える
- \* 国語の教科書を読んであげる
- \* カードへの色塗り
- \* 折り紙を折ってプレゼント

## 【つぼみ幼稚園・ルーテル幼稚園と 5 年生との交流】

＜交流のねらい＞総合的な学習の時間

幼稚園との交流を通して、新 1 年生に進学への期待感・安心感をもってもらうとともに、自分たちも 6 年生への期待感をもてるようにする。

- ◇ 1 0 月 9 日 幼稚園に訪問

- \* どうしたら喜んでもらえるか
- \* 歌と演奏をプレゼントされる

- ◇ 2 月 4 日 小学校に招待

- \* お互いに顔と名前が分かったの交流
- \* 教科書を見せたり、チョークで字を・・・
- \* メダルをプレゼント



## 【成果】

1 年生と 5 年生の二つの学年が交流しています。小学生になった 1 歳上のお兄さんお姉さんのとの関わりとして、入学してからお世話になる 6 年生との関係につながりをもつことができている。

## 【考察】

具体的なイメージやその経験がない子どもには、求める姿が十分に伝わりません。そこで“〇〇を見せていくこと”が必要です。

小学校の 6 年間は“あこがれ”をいかに生み、感じさせていくかが、とても大切なことだと、緑丘小学校では考えている。

このようなことは、小学校と幼稚園・保育園との関係にも言えることです。

# 札幌市立盤溪小学校

〒064-0945

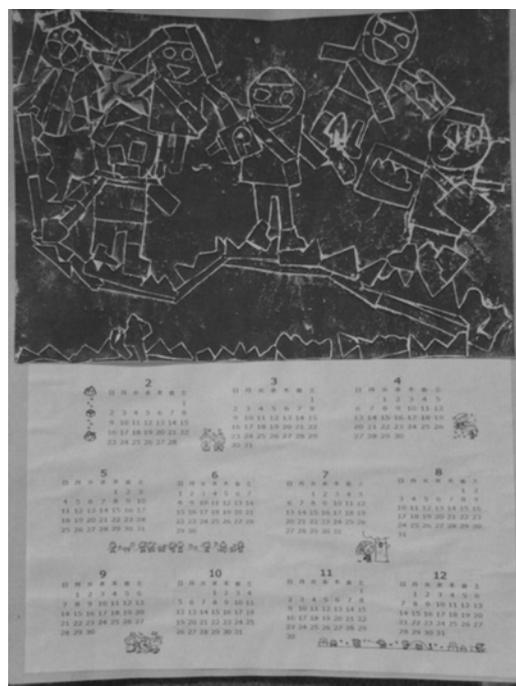
中央区盤溪 226 番地

## 【幼保小の連携】

本校は小規模特認校であるため、多数の区にまたがった複数の幼稚園・保育園から児童が入学してくる特殊な学校である。また、新入学児童が、冬休み終了後の抽選会で決定するため、幼保小連携推進協議会での引継に参加できない状況にある。

そのような状況であるため、幼保小の連携を密にすることが非常に困難な体制ではあるが、近年唯一の近隣幼稚園であるくぼんけい幼稚園と下記のような連携を行おうと取り組み始めている。

※ 進学も、地元校区は宮の森中学校であるが今年度の卒業生も、10の中学校に分かれる現状で小中の連携も困難な状況にある。



＜幼稚園児童制作のカレンダー＞

### ◆これまでの交流

- 1 幼稚園年長児からのカレンダーのプレゼント
- 2 各行事への管理職の参加による交流  
※ 今年度、本校学習発表会に幼稚園一般教諭が参加

### ◆今年度からの新規交流

- 1 本校学習発表会への年長児見学招待  
※今年度は日程の都合が合わずに中止
- 2 3学期に、年長児の1年生の学級訪問（小学校体験）を実施予定

## 【成果】

新しい取組は、未だ実施できていないため、記述すべき成果は出ていないが本校の学習発表会に幼稚園の一般教諭が見学に来てくださるなど、連携をしようと相談し始めたことで、教職員の意識が少しずつ変わってきている。

## 【考察】

連携を行うことにより、子どもたちにとっては、新1年生を迎える心構えが出来る（小学生）、小学校に対する不安が少なくなり小1プロブレム対策に役立つ（年長児）などの効果があることは当然だが、何よりもお互いの教職員がお互いを知ることが重要であると考えます。今後、広めていきたい。